

2024. 3. 23 明治大学マスコミクラブ  
～芭蕉の足跡を追って～  
「隅田川さくら歩き」実施報告書



生誕380年没後330年



森下から北千住まで、旅立ちの足跡





# 明治大学マスコミクラブ

## 2024. 3. 23～芭蕉の足跡を追って ～

### 「隅田川さくら歩き」行程実績



森下駅、〒135-0004 東京都江東区森下 2

江東区芭蕉記念館、〒135-0006 東京都江

芭蕉庵史跡展望庭園、〒135-0006 東京都

深川神明宮、〒135-0004 東京都江東区森

〒135-0004 東京都江東区森下 2 丁目 1 7

新御徒町駅、〒110-0016 東京都台東区台

南千住駅、〒116-0003 東京都荒川区南千

千住大橋、東京都足立区千住橋戸町

まちの歴史 千住の町並み、〒120-0037 東

炉端焼き 一步一步、〒120-0034 東京都足



14:00～16:45  
所要時間2.7時間  
参加費2,000円  
(芭蕉記念館入  
館料含む、移動  
交通費除く)

歩 2 時  
10.9 km

歩 22 分  
1.6 km





# 「隅田川さくら歩き」行程報告

2024年3月23日（土） 13:50 都営浅草線森下駅 集合

◆都営線森下駅改札 14:00



◆芭蕉記念館 14:15



◆芭蕉稲荷神社 14:45～

◆芭蕉庵史跡展望庭園



○芭蕉庵があった松尾芭蕉の本拠森下で集合。

○芭蕉記念館で芭蕉のプロフィール、生涯を学びました。

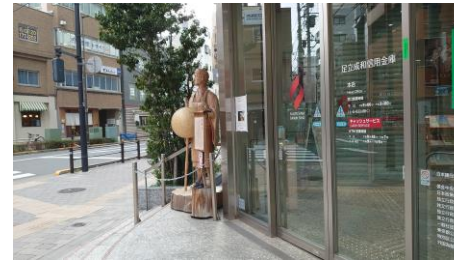
○芭蕉稲荷神社は、大正6年（1917）地元住民が建立、境内には、芭蕉庵跡の碑があり、芭蕉の住んだ芭蕉庵があったとされます。

○隅田川沿いの展望庭園の芭蕉座像は時間によって向きを変えます。小名木川の桜には少し早すぎました。

◆千住1丁目松尾芭蕉像 16:15



◆千住宿商店街 芭蕉像 16:30



○森下駅へ戻り、電車で南千住へ移動。（新御徒町でつくばエクスプレスで南千住へ）

○南千住の松尾芭蕉像を見て、奥の細道の出発点（最初の句の矢立の場所）千住大橋の両岸で芭蕉の旅立ちの地を確認。

○矢立の場所は北千住大橋北側の松尾芭蕉像を見てここだと確信。

○雨は上がりましたが、寒いので早めに二次会会場で乾杯。

◆16:40にまち歩き終了。宿場町通りの「一步一步」で名酒とつまみを堪能。



当日は小雨がぱらつく生憎の空模様でしたが、間もなく雨も上がり、まち歩きには殆ど支障がありませんでした。残念ながら小名木川の桜並木はまだでしたが、森下では早咲きの桜も見ることが出来ました。芭蕉の足跡をしっかりと辿り、北千住では早めに目当ての居酒屋で熱燗で乾杯をしました。

## 奥の細道

『おくのほそ道』（おくのほそみち）は、元禄文化期に活躍した俳人松尾芭蕉の紀行及び俳諧。元禄15年（1702年）刊。

芭蕉が崇拜する西行の500回忌にあたる1689年（元禄2年）に、門人の河合曾良を伴って江戸を発って、全行程約600里（2400キロメートル）、日数約150日間で東北・北陸を巡り、元禄4年（1691年）に江戸に帰った。

日本の古典における紀行作品の代表的存在であり、芭蕉の著作中で最も著名な作品である。

「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人也」[\* 1]という冒頭より始まり、作品中に多数の俳句が詠み込まれている。

## ツアーガイドプロフィール（和田哲郎）

1977年明治大学政治経済学部政治学科卒。MMC理事。

下町大好きな元広告マン。今まで仕事で手掛けた東京下町活性化の取り組み（ガイドブック編集、映像制作、隅田川関連イベント、栈敷の建設等）から、自ら浅草や向島・京島のツアーガイドを担当することに。今までの実績は「浅草歌舞伎まち歩き」「隅田川七福神ツアー」「浅草・向島の歴史と文化を辿る」「柴又から金町まで川辺を辿る自転車ツアー」「赤坂日枝神社から幕末・明治の赤坂を歩く」「サザエさんの町桜新町と呑川を歩く」等

